

農業を志す若者たちの心に🔥

農大だより No.30

発行：令和8(2026)年2月
栃木県農業大学校・栃木県農業大学校同窓会
〒321-3233 宇都宮市上籠谷町 1145-1
TEL：028-667-0711
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g63/index.html>

公式HPは
こちら！



Message

栃農大生の力～創立120周年を迎えて～

栃木県農業大学校 校長 杉井 孝

栃農大には、農大生の日頃の取組を公開する「農大祭」があります。例年は、卒論展示や実習で生産した農畜産物の販売が中心ですが、創立120年を迎えた今年は、農大をもっとよく知ってもらいたいと、学生が創意工夫をこらし、U字工事等によるスペシャルステージや団体によるPR、子供も大人も楽しめる体験など今までに無いイベントとなりました。昨年を6割上回る4千人の方が来場し農大を感じていただけたと思います。これも学生たちが協力し、頑張り抜いた努力の結晶です。自治会経費を節約し、不足分は同窓会や後援会に直談判して予算を確保、関係団体の長に面会し、出展の理解を得ました。混雑対策では、新たにシャトルバスの運行や時間を分けた農産物の販売などにも取り組み、混乱無くやり遂げ、「農大生の力」を見せてくれました。U字工事とのトークショーではつつこんでもらうなど、学生自身も思い出に残る農大祭となったと思います。後述の講演会では、先輩方から「仲間づくり」「チャレンジ」が大切とエールをいただきましたが、胸を張って「はい」と答えられる自慢の農大生たちです。

こんな栃農大生と一緒に学び、夢に向かって挑戦し続ける、そんな皆さんを農大はお待ちしております。

創立120周年記念式典を開催

明治38年、優れた農業経営者の育成を目的に創設された下延生農業補習学校などを前身とする県農業大学校は、このたび創立120周年を迎えました。2025年11月12日、「創立120周年記念式典」を同窓会、後援会、農大の3者共催で開催し、池田忠県議会議長をはじめ県議会、農業団体から御臨席いただき、在校生や学校関係者など約200名が出席しました。福田富一知事は「卒業生の多くが地域農業の中核経営者や指導者として幅広く活躍している。本県が誇る豊かな農業・農村を未来へ引き継ぐために、実践的な教育拠点として、伝統ある教育をさらに発展させ、本県農業をけん引する人材の育成に努めていく。」と挨拶しました。

式典後、卒業生で山口果樹園を経営する山口幸夫氏（宇都宮市）が「ニーズに対応した多品目経営と地域と連携した商品開発」と題し記念講演をしました。その後、同校を卒業された福田茂輝氏（鹿沼市）、高橋ゆかり氏（大田原市）、阿久津清尚氏（大田原市）の若手生産者3名を加え「とちぎの農業を牽引する我ら農大卒業生」をテーマにパネルディスカッションを行いました。パネラーからは「学生時代に培った出会い（仲間づくり）とチャレンジ精神はこれからも大切にしてほしい」と在校生にエールを送られていました。



知事あいさつ



山口氏記念講演



パネルディスカッション



栃木県農業大学校
同窓会長
杉山 忠雄

栃木県農業大学校創立120周年を迎え、同窓会を代表して心よりお慶び申し上げます。

本校が120周年の節目を迎えることができましたのは、歴任教職員のご尽力、地域社会の温かいご支援、卒業生一人ひとりの努力の賜物です。

私たち同窓生は、母校で培った知識と経験を礎に農業や関連分野で社会に貢献してきました。卒業生が農業の発展に寄与される姿は私たち同窓生の誇りです。同窓会は、母校の伝統と精神を次世代へ継承する架け橋として、卒業生の絆を深め、教育活動を支援しています。未来を担う学生の皆さんには、120年の歴史と志を受け継ぎ、希望と情熱をもって挑戦し続けてほしいと願っています。

母校、栃農大の更なる飛躍と発展を祈念し、ご挨拶いたします。



栃木県農業大学校
後援会長
青柳 高弘

栃木県農業大学校創立120周年を迎えられますことを、後援会代表として心よりお祝い申し上げます。

学生にとって、この伝統ある学び舎で過ごす2年間は、農業の知識や技術を習得するだけでなく、将来へ続く夢を育み、人として成長し、生涯の仲間との絆を築く大切な時間です。学生たちの生き生きとした姿は、保護者にとっても大きな励みであり未来への希望です。そしてその背景には学生一人ひとりに寄り添い、熱意あるご指導と細やかなご支援をくださっている先生方の存在があります。心より感謝申し上げます。後援会は今後も学校と連携し、地域と共に歩みながら支援を続けてまいります。

本校の更なる発展と学生の輝かしい未来を祈念し、ご挨拶いたします。

第47回農大祭を盛大に開催!!

11月21日（金）、22日（土）の2日間、第47回農大祭を開催しました。今年の農大祭は、農大創立120周年の節目の開催となり、「120年の歴史を胸に～未来を耕す農大生～」をテーマに、例年の出展内容に加え、スペシャルステージを開催しました。

1日目は、校内のみの開催とし、各学科専攻で調理した焼きそばやもちなどを互いに提供し合っ、その美味しさに舌鼓を打つとともに、ビンゴ大会や軽音楽愛好会のライブ演奏などを行い、大いに楽しみました。

2日目は一般公開とし、4,000名を超える大勢の来場者がありました。農産物販売や模擬店、子牛ふれあいなどのイベントを行い、来場されたお客様に楽しんでもらうことができました。また、関係機関団体による出店や、スペシャルステージとして那須拓陽高生による那須野ヶ原疏水太鼓の演奏、U字工事による農大120周年記念トークショーで盛り上がりました。

今までの農大の長い歴史を胸に、今後も未来を耕す農大生として栃木県の農業を盛り上げる一員を目指したいと思います。



農業生産学部 農業総合学科・ 作物専攻

作物専攻では1年生12名、2年生10名が、本県の基幹作物である稲麦大豆を中心に、生産現場で求められる栽培技術と経営管理を講義と実習を通じて体系的に学んでいます。

作物専攻水稲班では、「とちぎの星」など良食味品種を用いた高密度播種苗栽培や疎植栽培などの技術を学ぶほか、ICT技術への取組として衛星画像を活用した施肥管理やドローンによる湛水直播栽培にも挑戦しています。

作物専攻畑作班では、パン原料として人気がある小麦の「ゆめかおり」や大豆などを栽培し、子実の成分分析やもち・うどん・パンの加工を学ぶほか、畦畔雑草の発生状況調査や防除法の検討を行っています。また今年度は、創立120周年記念式典の赤飯に使うもち米とささげを育てました。

学生は、それぞれ10a程度の田畑を担当し、農業機械の操作を含め作物の栽培管理を主体的に実践しながら、社会的に期待が大きい低コスト・省力化技術の検証に取り組んでいます。



作物専攻2年 農業の未来、俺たちが切り開く!



水稲の生育調査



もち米の出荷調整

農業生産学部 農業総合学科・ 露地野菜専攻

露地野菜専攻では、機械化一貫体系による玉ねぎ・ねぎを中心に需要が高い季節露地野菜の栽培管理技術習得を目指し講義や実習を行っています。

また、地下水位制御により転換畑利用時の給排水が容易な地下灌漑システムや育苗時の自動灌水システム、乗用管理機等の新たな施設・農業機械について学べます。

本年度の2年生が取り組む卒業論文では、化学農薬の使用を抑えた環境に優しい栽培技術としてコンパニオンプランツや身近な菌類、LED捕虫器、被覆資材を利用した病害虫防除のほか、省力的雑草管理を目的としたリビングマルチの研究に取り組む等、持続的に発展可能な露地野菜の生産に資するよう頑張っています。



作業前に集合



ピーマン定植準備



ねぎの定植実習の様子

農業生産学部 農業総合学科・ 施設野菜専攻



施設野菜に関する基礎知識や最先端の技術習得を目指します

施設野菜専攻では1年生13名、2年生17名が、本県の主要な施設野菜品目であるいちご・トマトを中心に栽培技術や経営を学んでいます。

いちごは「とちあいか」「とちおとめ」等の本県オリジナルの品種を、土耕及び高設の高機能養液栽培装置で実習しています。特に「とちあいか」は、現在の「いちご王国・栃木」を支える主力品種ですが、全国の農業大学のなかでも、学習材料に「とちあいか」を使えるのは本校だけの特典です。

トマトではロックウール培地による養液栽培や、土耕栽培での越冬作型「長期多段どり栽培」の実習をしています。栽培している品種は、県の主力品種である「かれん」等です。特に、複合環境（温度・湿度・炭酸ガス濃度など）を遠隔制御できる高軒の高機能ハウスでは、ハイワイヤー誘引法による長期多段どり栽培を行い、収益性の高い栽培技術を実践的に学んでいます。

いちご栽培ハウスでの収穫の様子です。「とちあいか」の果実を傷めないよう、早朝から収穫を始めています



高軒高ハウスのトマト収穫が始まりました。長期多段栽培のため、調査期間も長期に渡ります。

農業生産学部 農業総合学科・ 花き専攻



2年生2名、1年生3名、合計5名の学生がカーネーション・トルコギキョウなどの切り花やシクラメン・あじさいなどの鉢花について、実習と講義により、栽培技術や経営について学んでいます。また、2年生になると自分で品目を選び卒論に取り組みます。自ら課題の選定から栽培管理、調査等を行い、学生生活の集大成である卒論にまとめます。

母の日には毎年恒例となっている知事と知事夫人へのカーネーションの花束贈呈を行っています。さらに、ピンカやジニア、パンジーやピオラなどの自ら育てた花苗を花壇やプランターに植え付け、創立120周年記念事業や各種のイベントを花で盛り上げています。

栽培した花々は、校内販売や市場出荷を行い、販売することの大切さについても学んでいます。特に、農大祭での花の販売は名物となっており、シクラメンやポインセチアの鉢花、パンジーやピオラの花苗を中心に学生自ら販売を行います。消費者との交流や販売することの喜びなど貴重な体験となっています。



知事・夫人への花束贈呈（母の日）



農大祭での花販売



農業生産学部 農業総合学科・ 果樹専攻

果樹専攻では、学生の就農促進を図るため、特に1年生の早い段階で県内果樹のトップ農家の経営を直接見て農家から話を聞くことにより、卒業後の就農イメージを描くよう働きかけています。

今年度は7月に3日間かけて、なし、ぶどう、りんごで先進的な経営を実践している栃木県農業士や県内の農業法人7経営体を現地視察しました。

最近、県内の果樹農家も法人化や規模拡大して雇用を拡大する経営体が増加しており、本校でも農家出身でない学生が県内の果樹農業法人に雇用就農する事例も増加しています。さらにそこから将来独立自営就農を目指す学生も増えています。

今、農家出身じゃなくても果樹で新規就農するチャンスは拡大しています。本校で果樹を学んでチャンスをつかみませんか？

また、本校では2017年度に日本なしでGLOBALG.A.P.の認証を取得して以来、毎年認証機関による更新審査を受け、認証を継続しています。年間237時間実施する専攻実習は、日本なし以外の果樹も含め、すべてこの認証基準を遵守して実施しますので、世界最高レベルのGAPを習得できます。



なし人工授粉



りんご多目的防災網収納



先進的経営体視察
(株加藤農園) (矢板市)



先進的経営体視察
(相場なし園ジョイント栽培) (宇都宮市)

農業生産学部

畜産学科



畜産学科では、乳肉複合施設のドリーム牛舎で、乳牛・肉用牛における飼料給与・搾乳等の基本的な飼養管理はもちろん、飼料作物の栽培・調製技術、U-motionなどのICT技術を活かした管理、家畜人工授精師の資格取得（2年次）など、畜産経営に必要な知識及び実践的な技術について学んでいます。

専攻実習は酪農と肉用牛に分かれ（1年次は飼料作物も）、学生が名付けたチーム名のもと、酪農専攻ではフリーストール牛舎での飼養管理やミルクパーラーでの搾乳をメインに哺乳牛からベテラン牛までの管理を、肉用牛専攻ではICTによる繁殖管理や体重・体高等のデータに基づく精密飼養管理、放牧等の実践技術を学びます。

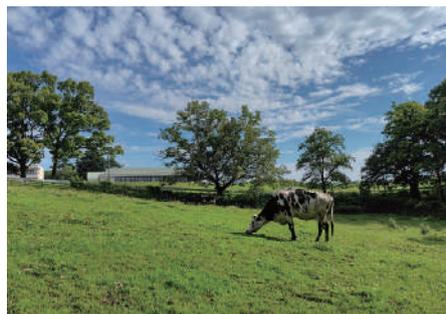
朝夕の牛舎管理もほぼ毎日学生が行っており、専攻実習も含めて学生が主体の「想造管理」を実践し、考える力を持つ、即戦力の担い手の育成を目指しています。



もっとなでて〜（アニマルウェルフェアにも配慮した管理を実践しています）



家畜人工授精師の資格も取得可能です



広々とした放牧場





いちご学科は、企業的な経営感覚と優れた技術を有し、次代の“いちご王国・栃木”をけん引する経営者を養成することを目的に令和3年に新設しました。2026年4月に入学する1年生は6期生になります。

2年間のカリキュラムは、卒業後、独立自営就農を実現させるため、学内及び生産現場における実習に重点を置き、経営者として備えるべき技術や知識、経営能力、判断力、決断力を身につけるほか、学生一人ひとりの就農準備段階に応じた支援を行っています。

一方、就農を目指すためには仲間づくりも必要です。志や悩みを同じくする同期は自然と仲間意識が高くなり、卒業後も同期同士の農作業補完や在校生の学習活動にとっても協力的です。また、今年度は、将来同じ産地で活躍する「とちぎ農業未来塾いちごコース」の研修生との交流交換会を行いました。

今後もちご学科は「縦と横の絆」を大切に、優れた経営者を育成していきます。



農大祭のブース設営



ビニル張替作業

とちぎ農業未来塾

とちぎ農業未来塾は、栃木県内で本格的な農業を始めたいと考えている方が、作物の栽培技術や農業経営に必要な基礎知識を習得する就農準備校です。週1回の就農準備基礎研修コースは、夏野菜と秋冬野菜に分けて計13種類の作物の栽培と出荷調製を実施しています。また、より実践的な内容を学ぶ就農準備専門研修（いちご、施設野菜、露地野菜、果樹）では、各専攻に分かれて今年4月からの就農に向け、全員が精力的に研修に励んでいます。



にら収穫



トラクターの実習



いちごの定植作業



たまねぎ収穫

学生自治会長



作物専攻2年
青柳 達也さん

学生自治会

当校には学生自治会が設置されており、選挙により選出された役員が中心となって学校生活の充実に向けた企画運営を担っています。年間2回実施されるスポーツ大会では、競技内容の立案から賞品の準備までを学生自らがを行い、学内交流の活性化を図ります。11月には農大祭を開催し、学生が生産した農産物の販売に加え、一般来場者にも楽しんでいただけるステージ企画を実施することで、本校の特色を広く発信しています。さらに各種発表会の運営やサークル活動の支援、新規サークル立ち上げのサポート、企画から実行まで主体的に取り組めることが自治会最大の魅力です。

今後も学生主体の活動を推進し、より誇りある学校づくりに寄与して参ります。



学生自治会公式X

学生自治会 Photo Album



白熱したスポーツ大会



農大祭運営を頑張っている役員達



選挙開票を待つ候補者



みんなで作った食材で収穫祭



軽音サークルによる演奏

寮生活紹介

本校の寮には、快適な暮らしを実現するため、寮生が自主的に運営している「寮生会」があります。寮生会は、規則正しい生活と、仲間たちとの楽しく有意義な日々との両立を目指し活動しています。

親睦を深めるためのビンゴ大会で楽しく盛り上がったり、防災訓練を実施し寮生の防災意識を高めたりしています。そのほかにも、自由時間を有効活用し、有志での勉強会やゲーム大会、映画鑑賞をしたりと、それぞれが仲間たちと楽しく寮生活を送っています。

栃木県内外から親元を離れ集まる寮生たちは、はじめこそ不安や緊張が見えましたが、一つ屋根の下での生活の経験と、日々の幸せや出来事を分かち合う仲間たちはこれからの人生にとってかけがえのない財産になると思います。

寮生会長



花き専攻2年
茨木 蒼太さん



寮生会総会



ビンゴ大会

海外派遣研修

パラッツォ・ヴェッキオで体感した農業の可能性

農業生産学部 農業総合学科 作物専攻 1年 落合 大起

私は今回、青年農業者海外短期派遣研修に参加し、フランスとイタリアの農業を直に学ぶことができました。特に、イタリアでの農家民泊が新たに実施された本研修では、ホテル並みの部屋や現地での食に驚くことばかりでした。そのような体験を通して、私が一番印象に残っていることは、イタリアの「パラッツォ・ヴェッキオ」という畜産業を営みつつ、レストランや直売所、アグリツーリズム施設を営んでいる農家での体験です。イタリアに到着後、最初に訪れた地であり、初めて農家民泊を体験することから、期待に胸を膨らませながら向かいました。部屋は基本的に三人一部屋となっており、ホテルのように部屋が整っていました。食事モイタリアならではのお肉やチーズが沢山盛り付けられ、現地原産のものを堪能することができました。また農場全体を見学し、自動搾乳機やスラリーの自動排泄装置等最新の機械を確認することができました。機械化を進める中で、補助金をどのように扱うか等、経営についても学べる貴重な機会を得ることができました。

今回フランスとイタリアに行って、農業の現状に関して、高齢化や担い手不足等、日本と抱える問題は変わりませんでした。しかしながら、両国は行政・生産者・消費者の関係が成立しており、農業政策に対する国民理解を得ていることが日本とは大きく異なるため、生産者の情熱に直結していると感じました。



イタリアでの歓迎会



フランス美術館で文化理解



チーズ工房の様子



研修の集合写真

フランスとイタリアの問題から学んだこと

農業生産学部 畜産学科 1年 岸 祐行

今回の短期海外研修ではフランスとイタリアを視察してきました。

フランスで一番印象に残ったのは青年農業組合です。この組合は若手農家の獲得と保護を行っていました。経営していくうえで不利に働くようなものがあると大規模なデモを起こしたり、改正を求める運動を行っているところは日本と大きく違う点でした。しかし農家の高齢化とそれに伴う人での減少という課題は日本と同じで、これといった解決策がなく悩んでいるところも同じでした。この農業の担い手不足は日本だけでなく世界共通の課題であり、各国が協力して解決していかなければならない問題になっていると感じました。

イタリアでは環境への配慮に力を入れていると感じました。特に酪農家の方が再生可能エネルギーを得るための設備を導入していました。見学先の大規模な酪農家の方では、排出された糞尿をエネルギーに変えるためのバイオガスプラントやスマート技術に使用されるエネルギーを得るためにソーラーパネルが多く設置されていました。これからの時代畜産分野での温室効果ガスの減少が求められます。エネルギーを自家で生産することで時代の流れにあった畜産経営ができると思いました。



牛(キアニーナ)



キアニーナのTボーンステーキ



ランボルギーニトラクター



広大なオリーブ畑



イタリアと岸祐行

活躍する卒業生からのメッセージ

卒業後は自営就農や農業法人等への雇用就農をはじめ、農業関連団体・企業等へ就職し、活躍しています。



令和6年度 畜産学科卒業 角田 陽向さん

那須町で和牛繁殖（20頭）・水稲を12ha経営する予定の角田陽向です。

「する予定」というのは現在、祖父母が経営しており、約3年後に自分が継承する予定でいます。今現在の経営状況としましては、祖父母のやり方は少し昔のやり方が根づいており牛の飼育があまり上手くいってないと思います。

そこで私は現在、那須烏山市にある全農南那須牧場で繁殖用和牛の飼養管理や人工授精を学んでいます。牧場で精一杯学んだ知識を将来活かして那須町の農業に貢献したいと考えています。また、これからの農業はスマート農業が発展していくと思うのでドローンや人工知能を活用した農場にしていきたいです。

○農大生に向けて

これから就職や進学などで不安に思ったりすることも多いと思いますが、大抵の事は何とかできるので気負いしすぎずに今の友人や家族などと楽しい思い出を作ってください。また、近年は物価高や不況で苦しい生活を送っていますが、農業はやり方次第で稼げると思うので夢を諦めずに頑張りたいです！応援よろしくをお願いします！

(インタビューアー 令和6年度卒業 同窓会理事 石塚 那智)



令和6年度 いちご学科卒業 柏崎 智美さん

社会人を経てから農大（いちご学科）へ入学をし、祖父母から農地を継承して新規就農でいちご15aをスタートさせました。

弟と一緒に水稲を手伝いながら農業を始めています。

目に見えて成長を感じる農業を始めて良かったなと思います。

作物が可愛くて仕方がない（^^）！

栽培・経営・労務などやることは多岐に渡りますがとてもやりがいがあります。

○農大での思い出

たくさんの農家さんの圃場を見に行き勉強をしたことと学校のイベントに参加したことが特に印象深い思い出です。仲間とのつながりは今でも続いており、経営の相談をしたりできるかけがえのない存在です。

○農大生に向けて

たくさんの人と関わり、繋がりを大切の方が良いと思います。

卒業後にお世話になることも多いので積極的に交流を深めた方が良いと思います。

(インタビューアー 令和6年度卒業 同窓会理事 福田 智也)



令和6年度 農業総合学科 作物専攻卒業 齋藤 駿幸さん

農大を卒業後、矢板市にある大規模水稲農家「株式会社さとうふぁーむ」さんの元へ雇用就農し、日々学びを重ねています。

将来的に上田原町にある実家の「ながや農園」の跡取りとして経営を行うつもりです。実家では水稲とネギをメインに約20haほど栽培していますが他にも生姜、マコモタケ等を栽培しています。

私が父の後を継いだ際には、栽培品目を米とネギだけに絞り面積拡大。それに伴い収量安定化、高品質な作物を生産できるようにしたいです。

○農大での思い出

インターンシップで新里町にあるネギ農家さんの元に行きました。そこではわざとネギを曲げる新里ネギ（ブランドネギ）の栽培方法を体験し新里町ならではの栽培技術と知識を得ることができました。

放課後は友達と体育館で体を動かしたり買い物や外食などをして、とても有意義な時間を過ごせました。

○農大生に向けて

「失敗を恐れるより、何もしないことを恐れよ」という言葉があります。失敗を避けようとして何もしなければ成長するチャンスも掴めません。上手くいかなくても、それは次に繋がる大切な経験です。

ぜひ、1歩を踏み出す勇気を持ってください。

(本人記)



令和元年度 園芸経営学科 野菜専攻卒業 鈴木 一平さん

私は栃木県矢板市でいちごをメインに季節野菜も少し栽培しています。卒業時は親元就農で就農し卒業から3年程で親から継承をして経営者になりました。経営体制は父と私の2人、繁忙期や人手が必要な作業で母に入ってもらう3人の家族経営です。それ以外にも4Hクラブの会長も務めています。



○農大生に向けて

私は親の後を継ぐ形で就農しましたが、1から新規就農を始めるだけでなく雇用就農や第三者継承で就農したりと選択肢もあると思います。

自分に合った就農を考えてみましょう。

迷った時は同じ農大の仲間に進路について聞いてみたり、先生や近くの農業振興事務所に問い合わせをしてみるのもおすすめです。

私は地元の農協青年部、いちご部会、4Hクラブに所属しています。

それぞれで同じく農家の方がいるわけで同じ作物であればその作物の情報を得られたり、遠くても互いの近況を語って鼓舞し合ったりしています。なのでできるのであれば仲間を見つける、そして繋がっていくのは大事なことだと思います。

農大はそういう就農について考えたり仲間を得るのに適している環境ではあるので、このことを頭の片隅にでも留めて残りの農大を過ごしてみてください。

(インタビュアー 令和6年度卒業 同窓会理事 齋藤 駿幸)



令和6年度 農業総合学科 花き専攻卒業 永嶋 改さん

現在、栃木県足利市にある「足利フラワーリゾート」で勤務しています。園内では四季折々の花々が楽しめる展示やイベントが行われており、私は主に花壇の植栽管理や開花調整、季節ごとの展示企画などを担当しています。年間を通じて来園されるお客様に“花の美しさ”と感動”を届けることを目標に、チームで協力しながら日々取り組んでいます。

花は生き物ですので、天候や気温の変化によって生育状況が大きく変わります。予定通りに花を咲かせるためには、日々の観察と細やかな管理が欠かせません。特に大規模な展示では多くのスタッフと連携するため、チームワークやスケジュール調整の難しさを感じることもありますが、それ以上に見頃を迎えたときの達成感は大きいです。

○農大での思い出

花き栽培の授業での実習が特に印象に残っています。実際に種まきから開花までの過程を経験することで、植物の奥深さと管理の重要性を学びました。仲間と協力して多くの草花を管理した時間は、今の仕事にも大いに生きています。

○農大生に向けて

在学中にできるだけ多くの資格に挑戦しておくのをおすすめします。社会に出てから「あのとき取っておけばよかった」と思うことも多いです。知識や技術をしっかり身につけておくことで、自信にもつながります。興味のある分野は積極的に勉強して、将来の選択肢を広げてください！

(インタビュアー 令和6年度卒業 同窓会理事 菅谷 葵)



令和元年度 園芸経営学科 花き専攻卒業 菱沼 由希さん

栃木県芳賀町で花農家を営んでいます。主にシクラメン、紫陽花、クレマチス、都忘れ、アフェランドラ・ダニアを中心に栽培しています。農大卒業後は県内の花屋さんで1年間研修をさせていただいて、その後就農しました。花を買っていただいた方に喜んで笑顔になっていただけるような花づくりを心掛けています。

仕事で大変なことは、異常気象による記録的な高温により花の成長に遅れが生じたり、病気が出やすくなるのが大変なことです。ミスト導入などで温度を下げるなど工夫をしています。

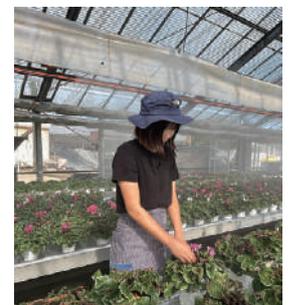
○農大での思い出

インターンシップで尊敬するシクラメン農家さんのもとへ研修に行かせていただき、すごく刺激になり勉強になりました。

○農大生に向けて

勉強や実習、資格をとることはすごく大切ですが、多くの友達と交流してたくさん思い出を作ってください！そして悔いの残らない学生生活を送ってください！

(インタビュアー 令和6年度卒業 同窓会理事 菅谷 葵)





令和6年度 いちご学科卒業 森岡 興隆さん

現在は真岡市にて令和8年度産のいちごの生産を開始しました。栽培規模は12aで翌年度産からは18aに規模拡大を行う予定です。現在の目標は甘くて美味しいいちご作りと病害虫を出さずに1年間を通して生産を行うことです。今後の目標は品質と生産量の向上に取り組み、更なる規模拡大を行いたいと考えています。

○農大生に向けて

1年生ではいちご作りの基礎を学びます。

県の新品種、とちあいかの栽培の最新情報を県職員の先生方から学ぶことが出来ます。

2年生では先進的な経営をされている農家での実習が大半を占めます。

現在経営に成功されている農家から栽培技術、経営管理、農家の心得など多岐にわたり直接学びます。

この農家との出会いは生涯の師となり皆さんの栽培技術、経営の指針となるでしょう。困った時はいつでも頼れる関係を構築

させることが大切です。

そして1番はいちご学科の仲間作りです。

県内各所の情報を共有し、共に高めあうことのできる一生の友となるでしょう。

就農を始めるにあたり越えないといけないう高い壁がいくつもありますが、仲間と共に励まし合い乗り越えてください。

皆さんが目標としている就農という名のスタートラインに立てることを願っております。

そしてこれからは、私もいちご学科の仲間として皆さんと付き合っていけることを楽しみにしております。

(インタビュアー 令和6年度卒業 同窓会理事 福田 智也)



令和6年度 農業総合学科 花き専攻卒業 和田 英和さん

栃木県農業大学校農業生産学部農業総合学科花き専攻卒業後、宇都宮大学農学部農業経済学科へ編入しました。現在は大学で講義を受ける傍ら、「矢板市におけるりんご生産の持続的発展の展望」という内容の卒論を製作中です。

私は3年次編入で大学へと編入しましたが、進学後の今、単位の取得でとても苦しんでいます。大学の卒業に必要な127単位のうち、単位認定をとれたものは40単位程のため、残りの90単位近くを2年で、しかも就活や卒論と同時並行で取得しなければいけません。毎日講義や実習があり忙しい学生生活ですが、講義の中で自分の知らないことを学んだり、人との共同作業のなかで新しい考え方に会ったりすることはとても楽しく、充実した日々を送っています。

○農大での思い出

先進的経営体実習で、農家さんのもとで本格的に農業へ関わったことが特に思い出深いです。私はさくら市にある花き農家さんのもとで研修を受けさせていただいたのですが、そこで花きの栽培から出荷まで一連の作業を実際の作業を通して学ばせていただきました。私の実家は農家ではないため、農家としての知見を深められた良き機会だったと感じています。

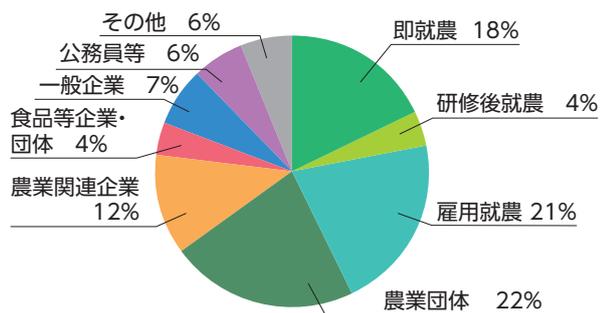
○農大生に向けて

農業は、これからの日本を支えるために必要な基幹的産業です。その農業を学ぶ在校生の皆さんは、日本の未来を担う貴重な人材であるといえます。農大での生活は勉強や実習、卒論などで大変だと思いますが、人々の暮らしを支えているという誇りを胸に、これからの学びに励んでください。

(インタビュアー 令和6年度卒業 同窓会理事 菅谷 葵)



令和6年度卒業生の進路 (2025.3.17現在)



[主な雇用就農先]

ノウファームこうつか (株)さとうふあーむ (株)オプティムファーム (株)F・わたなべ (株)菅谷農産 (株)山田農園 ノウまがのしま JA全農南那須牧場 (株)美土里農園 (株)全農ビジネスサポート (株)加藤農園 小野寺牧場 (株)雄 猪野さんちのいちご農園 (株)ブランドワンファーム

[農業関連団体・企業・公務員等就職先]

(公財)鹿沼市農業公社 JA全農とちぎ広域農機センター パールライス部 総合種苗センター JAなすの JAはが野 JAかみつが (株)JAエルサポート 酪農とちぎ農協 (株)中セキ関東甲信越 ヤンマーアグリジャパン(株) 第一アグリ(株) (株)栃木県畜産公社 農研機構 栃木県畜産酪農研究センター (独法)家畜改良センター